

出仕ノ次第諸侯ノ面々三獻ノ御土器御盃是ヲ被下御酌矢部善七郎大津傳十郎犬塚又市青山
虎千代ナリ諸侍又品々有之其後御殿ノ内御座所各見物仰付ラレ其座席三國ノ名所ノ景狩野
永徳法印濃繪色々天下無雙ノ壯觀ナリ此御坐敷へ各召上ラレ御雜煮并ニ唐物ノ御菓子色々
是ヲ下サレ當城成就ノ儀各多年辛勞故御珍重ノ由御諚有之何レモ忝キ由是ヲ拜服ス同月四
日萬見仙千代宅ニ於テ中將殿御茶ノ會有之是ハ舊臘御拜領ノ御茶道具御ヒラキノ會ナリ御
人數九人二位法印宮内卿法印林佐渡守瀧河左近羽柴筑前守惟住五郎左衛門市橋九郎右衛門
長谷川丹波守長谷川與次以上是等ナリ

信長公仰九鬼舟軍風情御覽事附荒木村重逆心事

大臣織田信長御感悅斜ナラズ九鬼所持ノ大船へ只御一人御召有テ上覽有之ソレヨリ御上津有
テ堺ノ町今井宗久居宅へ御成御茶召上ラレ候誠ニ以テ忝キ仕合ナリ其御歸リ宗易宗及道叱
等ガ座敷御一覽有ルベキノタメ御立寄御通リナリ皆以過分ノ仕合茶湯ノ面目是ニ不過

〔明良洪範十六〕佐久間右衛門尉信盛ハ信長ノ老臣ナレド石山本願寺攻ノ時ニ信盛ハ住吉ニ陣
取リシテ居タレド本願寺強クシテ容易ニ攻ラレズ一年餘モ對陣シテ戰ル○ル恐事無レバ戰
必見合セ休息ノ間茶ノ湯ヲ催シタルヲ信長聞レテ軍事ニ怠ル事以テノ外也トテ大ニ怒ラレ
領所ヲ取上ゲ其儘陣中ヨリ直ニ追放セラレタリ

〔北野大茶湯之記〕一北野の於森十月朔日より十日の間天氣次第大茶湯被成御沙汰に付而御名
物共不殘被相揃數寄執心之者に可被爲見御ため御催被成候事

一茶湯執心においてはまた若黨町人百姓以下によらず釜一つるべ一呑物一茶なきものはこ
がしにても不苦候間提來可仕候事

一座鋪之儀は松原にて候間疊二疊但侘者はとち付にてもいなばきにても苦カル間敷事着所